

日交研シリーズ A-604

平成 25 年度研究プロジェクト

「ニュータウン再生に係るジレンマ問題に関する基礎的研究」

刊行：2014 年 7 月

ニュータウン再生に係るジレンマ問題に関する基礎的研究

A Fundamental Study of Dilemma in Newtown Regeneration

主査：藤原章正（広島大学大学院教授）

Akimasa FUJIWARA

要 旨

ニュータウン（NT）における諸問題の持続的な解決にあたっては、個々の NT の福祉向上に関するミクロな議論に加え、上位の計画理念や人口減少、財政制約を踏まえたマクロな検討が肝要となる。例えば人口減少下において NT での居住を促進することは、集約型都市構造の実現に向けた一連の施策と矛盾する恐れがある。言い換えると、NT の再生に係る議論においては、ミクロに見れば福祉政策として正当と思われる再生戦略が、マクロに見れば最適な選択とはならないというジレンマ問題が存在する。

そこで本研究では、NT 再生に係るジレンマ問題の構造を把握し、今後の議論に向けた基礎的情報を提供することを目的に、①人口推移、高齢者率、地理特性、土地利用、交通サービス水準などの客観データを用いた NT の現状把握、③交通・住環境に対する NT 住民のリスク認知の分析、②パーソナル・モビリティ（PM）保有意向の分析を行った。

①については、広島市の都市マスタープランで地区拠点として指定されている NT とそうでない NT の特徴を交通環境、施設配置の観点から明らかにした。また、公共交通のアクセシビリティ改善のためには地区内移動環境が重要であることが示された。②については、交通・住環境に関する 12 のリスク事象に対する認知を因子分析により解析した。その結果、私的リスク及び公的リスクの 2 因子が抽出され、とりわけ公的リスクの認知については地域間差異が大きいことが示された。③については、世帯構成員の高齢者への配慮（利他性）を組み込んだ PM 保有意向モデルを構築し、他の世帯構成員の選好が PM 保有意思決定に与える影響を明らかにした。また、他の世帯構成員の選好を考慮しない場合、PM 保有が過小に推定される可能性が高いことが示唆された。

キーワード：集約型都市構造、ニュータウン再生、パーソナル・モビリティ、ジレンマ

Keywords : Compact Urban Form, Newtown Regeneration, Personal Mobility, Dilemma